

□ 要請番号 (JL10916B05)

募集終了



国名	職種コード 職種	年齢制限	活動形態	区分	派遣期間	派遣隊次
キリバス	G157 日本語教育		個別	交替 4代目	2年	・ 2017/1 ・ 2017/3

【配属機関概要】

1) 受入省庁名 (日本語)

労働・人材開発省

2) 配属機関名 (日本語)

船員養成校

3) 任地 (南タラワ・ベシオ地区) JICA事務所の所在地 (南タラワ・アンボ)

任地からJICA事務所までの交通手段、所要時間 (バスで 約 1.0 時間)

4) 配属機関の規模・事業内容

船員養成校は主に商船の乗組員を養成するためにキリバス政府が1967年に創立した職業訓練機関だが、2015年から政府の方針により漁船の乗組員の養成機関であった漁船員養成校が本配属先に統合された。統合後の配属先の年間予算は約2億円、総スタッフ数は80名、年間の平均訓練生数は約200名。船員養成コース(期間約1年半)、漁船員養成コース(期間約半年間)の他、船員の昇進研修などの短期研修も年間20コース以上実施されている。ニュージーランドからの支援(施設機材整備、ボランティア派遣)が行われている。現在、協力隊員1名(料理)が活動中である。

【要請概要】

1) 要請理由・背景

キリバスでは外国船での就労は主要な就職先であり、また重要な外貨獲得手段となっている。このうち漁船員の養成は漁船員養成校(FTC)で行われてきたが機関統合により現在は本配属先にて行われている。日本のカツオ・マグロ漁船では現在も約150名ほどのFTCを卒業したキリバス人が雇用されており、年間30名程度の新規人材が採用されるのが通例となっている。このため漁船員養成コースにおいては基本的な日本語の運用能力の学習が必須となっており、訓練期間中を通じて継続的に日本語の授業が行われている。キリバス人日本語教師が2名おり、協力隊員による指導方法のOJTや教材等の改良などが強く期待されている。基本的な教材は揃っているが、就職後は漁船という環境の中で日本人と寝食を共にしながら働くため、実際の日本語の語学力に加え、日本人の生活習慣、日本文化などに関する基本的な理解を得ることへの協力も引き続き求められている。

2) 予定されている活動内容 (以下を踏まえ、隊員の経験をもとに関係者と協議して計画を立て、柔軟に内容を変更しながら活動を進めます)

- 1.同僚教師2名とともに2クラス(1クラスあたり約25名)の訓練生に対して、1クラスあたり週12時間程度の日本語の授業を行う。
- 2.キリバス人日本語教師に対して日本語指導法についての助言を行う。
- 3.日本人の生活習慣や日本文化に関する基本的な理解を得るための協力を行う。

3) 隊員が使用する機材の機種名・型式、設備等

日本語教材(使用中の主なテキスト「SHINNIHONGONO KISO 1996年度」、CD/DVD)、PC、プリンター、プロジェクター、ホワイトボードなど。

4) 配属先同僚及び活動対象者

- ・ 学校長(40代、男性)
- ・ 日本語教師(40代、男性、教師経験10年)
- ・ 日本教師アシスタント(40代、教師経験6年)
- ・ 漁船員養成コース訓練生(約50名、男性、18～30代、日本語は全員初心者)

5) 活動使用言語

英語

6) 生活使用言語

その他

7) 選考指定言語

【資格条件等】

[免許]：(日本語教授法)

[学歴]：() 備考：

[性別]：(男性) 備考：訓練生の大半が男性であるため [経験]：(実務経験) 2年以上 備考：キリバス人日本語教師と協働のため

任地での乗物利用の必要性

不要

【地域概況】

[気候]：(熱帯モンスーン気候) 気温：(25～35℃位) [電気]：(不安定)

[通信]：(インターネット可 電話可) [水道]：(不安定)

【特記事項】

住居は他の同性隊員又は他国の同性ボランティアと同居になる可能性がある。